

山行番 NO. 1650
 日時 2015. 7. 19 (日) 曇り
 山域 箱根・金時山 (1212m)
 足柄駅～新柴コース～金時山～乙女峠～金時神社～金時山～新柴コース～足柄駅
 目的 金時山2回登頂に挑戦
 参加者 登頂2回：井上・勝又陽・小松 (乙女バス停熱中症リタイヤ)・峰田・掛橋・羽鳥
 登頂1回：後藤、浜道、土屋、伊藤、沖 (御殿場駅開始、乙女峠経由、足柄)

標高差 上り 足柄駅約340m～金時山1212m＝約872m
 金時山コル約1100m～長尾山1150m＝約50m
 金時神社約600m～金時山1212m＝約612m
 合計＝約1534m

下り 金時山1212m～コル約1100m＝約112m
 長尾山1150m～金時神社約600m＝約550m
 金時山1212m～足柄駅約340m＝約872m
 合計＝約1534m

タイム

	2015. 07. 19 今回	2015. 07. 10	2014. 08	2013. 09
足柄駅発	7:15	6:27	7:24	6:45
林道記録	なし		8:32	8:00
足柄峠からの道		8:29	9:25	8:55
1回目頂上	9:50～10:00	8:59～9:07	9:50	9:22
金時神社	12:00	9:50		
2回目頂上	13:15～38	11:56～12:26	12:32～13:20	12:00～22
足柄駅	15:30	14:40	15:20	13:52
備考	反時計	時計回り	反時計	反時計

実働時間実績

2015年＝7時間42分 (反時計回り) 5名＋1名 (乙女バス停まで)
 2015年＝7時間34分 (時計回り) 後藤単独
 2014年＝7時間08分 (反時計回り) 後藤単独
 2013年＝6時間45分 (反時計回り)・・・昨年の下りは、電車の時間で飛ばした・後藤単独

“ついに念願の金時山一筆書きを達成しました”

【いきさつ】

転勤が決まったため、送別山行と送別会をセットで行うことになり、いつかはやりたいと思っていた「金時一筆書き」をお願いした。しかし、7月からずっと日曜移動の出張が続くため、送別山行はあきらめ、送別会だけ7月11日に下土狩「満貫」で行うことになった。

大勢の人に参加いただき、温かい言葉と寄せ書きとオリジナルの杖を頂きました。今回金時山に行けなくなった話が出た時、すかさず掛橋さんが「行きましょうよ」と言い、小松さんが「行こう」と応えた。こうなると、私もがぜん行くしかないと思い、出張は山から下りてから行けばなんとかなると勢いで賛成した。

【前日、心配、準備】

前日は雨が降り、夜7時の天気予報で行くかやめるか決まることになった。予報では静岡東部は曇りだが、神奈川東部は晴れマークが出ていた。晴れると金時神社から上りで背中から強い日差しを浴びる可能性が高く、そのため日射病が心配された。

そのため、使わないものは持って行かず、水分を十分に持っていくことにした。持って行った水分は、ビールを除き、4リットル。結果として、天気は曇りだったので、水は1リットル残った。2回目登頂後は疲れて食べられないだろうと予想し、行動色のパンのみとした。

【当日】

6:10、旧246新潟運輸下のバス停で、小松さん運転の後藤さんの車エルグランドに乗る。この後、裾野市役所で羽鳥さんをピックアップ。7時ごろ足柄駅に到着。青空が現れ、金時山が雲から出そうと暑くなりそう。足柄駅南側にある病院の駐車場に車を止め、7:15出発。

私は一人傘をさして日差しを遮り歩いた。ゴルフ場入口から入る登り口を、おしゃべりしながら歩いていたので通り過ぎそうになった。木立の中を歩くので暑くない。前日までの雨で、ところどころ道に水が流れていたり、水たまりやぬかるみが現れる。

しかし歩きにくくはない。シモツケソウの花がきれいだ。時折、強い風が吹き心地よい。9時すぎに1回登山B隊の後藤さんから、足柄駅を出発したとの無線が入った。

やがて一般登山道（足柄道）と合流し、十二支が書かれた12個の階段を登り、まずは1回目の登頂を果たす。小松さんが遅れた。ここで気を抜かず、まだ半分だと気持ちを維持し2回目に望む。真っ白にガスがかかり風も強い。

火山活動が活発になった話題の大涌谷が見えないのが残念。2回目は乙女峠側を下りて金時神社から登る。長尾山頂上で、御殿場駅から歩き登ってきた沖さんと出会った。乙女峠の茶屋はやっておらず、落書きがされていた。石の多い下りを黙々と歩く。

やがて自動車が通る音が聞こえたが、なかなか近づかなかった。乙女口バス停に出た。長い下りが終わるころ、勝又さんが「すっきりしたもの飲みたいなア」と言うので、私もコーラが飲みたくなった。道路を少し歩いたところに自動販売機が見つかり、コーラを買い一気に飲んだ。

金時ならでは。掛橋さんは、ビールを一本グイっといった。小松さんは脚がパンパンになったとのことで、バスで御殿場駅へ行き、足柄駅へ戻ることとなった。

自動車がびゅんびゅん走る横を歩き、金時神社に着く。停めている車が多い。神社トイレ前の無料駐車場も、有料駐車場もいっぱい、有料駐車場の前の道にずらっと車が並んでいた。すでに900mは登っている。2回目は上り下りを一回やった疲労のある状態からスタートだ。いつものようにひょいひょいとは進まない。アルプスの縦走に挑む気分だ。登って下ってまた登る時の、あの「あまた登るのか」という気持ち。

2番手に行く峰田さんは、はあはあと苦しそうな息が聞こえるが、その次の羽鳥さんは息も上がらず苦しくなさそうに見えた。私は、大汗をかき、ズボンが膝まで濡れて乾かず、リバーウォークで川に入ったような姿だった。登りがいがある。20kgの歩荷訓練のような脚への負荷だった。体のしんどさに耐えて2回目の頂上到着。

思わずバンザイ。すごい達成感。とうとうやりきった。頂上では1回登山のB隊が待っていてく

れた。一緒に写真を撮って、B 隊は先に下山開始。A 隊はしばし休憩。あたりは真っ白。15 分ほどゆっくりして下山開始。

A 隊が登る時にモトクロスバイクが登山道を通ったらしく、タイヤの跡が土についている。道が荒れるのでやめてほしい。なにより登山者にとって危険だ。自分で転んだりしてけがをするならともかく、登山道を走るバイクと接触してけがをするなんてバカバカしい。歩道を自転車が走るようなもので、道交法違反と言いたい。

A 隊との無線連絡で、お互いの現在位置を確認する。下山途中から膝が痛み出した。やはり体への負担は大きいようだ。ゴルフ場前からアスファルトの長い道を歩く。足柄駅に近くで 3 時台の電車が通過していった。次の 4 時 8 分に乗るしかない。

駅に着くと後藤さんがタオルを振って待っていてくれた。他の人は、ひと足早く足柄温泉へ行った。私は、帰宅後に出張先へ移動するため温泉にはいかず電車で帰ることにしていた。掛橋さんと羽鳥さんもいっしょに電車で帰ることにした。電車が来るまでの時間で、コンビニに行ってアイスクリームを買って食べた。

【後記】

金時山はすごい山ではないが、登山回数は最も多い。娘がちっちゃな時にも家族で登った。手軽なので一人でも何度か来た。水を頂上の山小屋（神奈川側）に提供すると 200 円のアイスキャンデーがもらえ、歩荷で疲れた体を癒してくれた。

鎌を持って歩かれていないコースのカヤを刈りながら藪の中をさまよい長尾山に出たこともあった。人気が高すぎて人が多いと閉口するが、身近にこういう山があつてよかったと思う。

最後に。2006 年に長泉生涯学習のさわやかハイクから約 9 年、大変お世話になりました。「また登ろうぜ」ということで、最後の山ではないので、またよろしくお願いします。

以上



「井上君、また、登ろうぜ！！！」